

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-319392

(43)公開日 平成7年(1995)12月8日

(51)Int.Cl. <sup>9</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 9 F 5/00	G			
27/00	C			

審査請求 未請求 請求項の数2 F D (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平6-136350

(22)出願日 平成6年(1994)5月26日

(71)出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72)発明者 辻野 和久

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

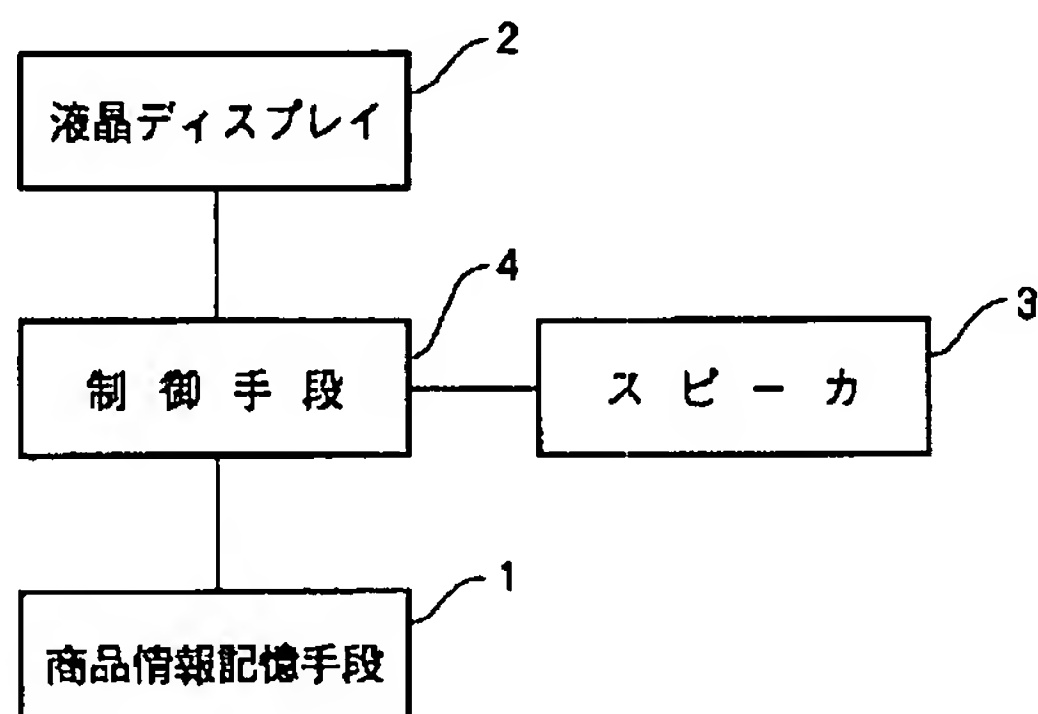
(74)代理人 弁理士 小西 淳美

(54)【発明の名称】 商品情報表示装置

(57)【要約】

【目的】 店頭または店内で、場所をとらずに多くの情報を伝えることが可能な宣伝物をを提供することを目的とする。

【構成】 商品の情報を格納した商品情報記憶手段、この情報を表示する表示手段を備え、全体形状が商品と同一もしくは類似の形態をしている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 商品の情報を格納した商品情報記憶手段、この商品情報記憶手段に記憶されている情報を表示する表示手段を備え、全体形状が前記商品と同一もしくは類似の形態をしていることを特徴とする商品情報表示装置

【請求項2】 商品情報記憶手段に記憶されている情報を音声で出力する音発生手段を備えていることを特徴とする請求項1に記載の商品情報表示装置

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は店頭または店内で商品情報等の各種情報を知らせるための商品情報表示装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 店頭、店内での商品の宣伝のため、従来、ポスターや客の注目を集めるようにデザインされたPOP（宣伝用の展示物）等が利用されている。例えば、書店では、POPがカウンターや書籍の配列棚等に展示され、書店の宣伝案内、新刊本の宣伝案内、本日発売本の宣伝案内等に利用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来のPOPは、商品情報が印刷されているため、商品情報を変えたいときは、POPそのものを取り替えなければならず、また、1つのPOPで伝える情報の量にも制限があるため、多くの商品を宣伝するためには、多数のPOPを必要とした。そのため、場所をとらず、多くの情報を伝えることができる宣伝物の出現が望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】 上記の問題点を解決するため、本願第1の発明では、商品情報表示装置が表示手段、商品情報記憶手段を備え、全体形状が表示する商品情報の商品と同一もしくは類似の形態をしていることを特徴とする。

【0005】 本願第2の発明では、第1の発明に加え、さらに音発生手段を備えたことを特徴とする。

【0006】

【作用】 本願第1の発明の商品情報表示装置のスイッチが入ると、商品情報記憶手段に記憶された商品情報が表示手段に表示される。この商品情報表示装置は商品と類似の形態をしているので、商品と共に店頭に並べ、客に商品情報を提示することができる。

【0007】 本願第2の発明によれば、さらに音発生手段により商品情報を音声で知らせることができる。

【0008】

【実施例】 以下、本発明の実施例を図面を用いて説明する。図1は本発明による商品情報表示装置の構成を示すブロック図である。本発明の商品情報表示装置は宣伝すべき商品の情報を格納した商品情報記憶手段1、商品情

報を表示する液晶ディスプレイ（以下、LCDという）

2、商品情報を音声で出力するスピーカ3、全体を制御する制御手段4により構成される。

【0009】 商品情報記憶手段1としては、書換え可能なRAMが利用される。この商品情報記憶手段1にはコンピュータによりデジタル情報として蓄積されたデータが書き込まれる。このデジタル情報としては、商品情報を表示するための文字データ、画像データ、音声として出力するための音声データがある。画像データとしては、CGの動画等も可能である。商品情報記憶手段1は内蔵型のものであっても良いし、フロッピーディスク（FD）、ICカード、光カード等の記憶媒体で本体に読み込み手段を設けたものであってもよい。

【0010】 LCD2およびスピーカ3は公知のものが使用できる。制御手段4は商品情報記憶手段1、LCD2およびスピーカ3を制御する機能を有しており、マイクロプロセッサ等で構成される。

【0011】 図2（a）は本発明の商品情報表示装置を書店用に適用したものの斜視図である。この商品情報表示装置は本の形をしており、本の背表紙に当たる部分がLCDとなっており、その下部にスピーカが取り付けられている。LCD、スピーカ以外の部分は外側が網板またはプラスチックで形成され、内部に商品情報記憶手段1、制御手段4、電源、スイッチ等を内蔵している。

【0012】 このように本の形状をした商品情報表示装置は図2（b）に示すように、書棚にLCDの面を表にして、他の本と同様に並べられる。好ましい利用例としては、出版社ごとの本の情報を記憶したFDを商品情報表示装置5に装着し、商品情報表示装置5を記憶されている情報と対応する出版社の専用書棚に並べる。ここで、商品情報記憶手段1（この例ではFD）に記憶される情報としては、新刊案内、新刊のセールスポイント、その出版社の特別なお知らせ等がある。

【0013】 書棚に並べられた商品情報表示装置の電源が入ると、商品情報記憶手段1に格納された情報は制御手段4により読み出され、文字情報および画像情報はLCD2により表示されると同時に音声情報はスピーカ3から出力される。

【0014】 本発明では上記の構成に加え、さらに、時計を内蔵し、スイッチの入る時刻、切れる時刻を設定しておくなどして、開店時間になるとスイッチが入り、閉店時間になると、スイッチが切れるようにしたり、音センサ、赤外センサ等を内蔵して人の存在を確認してスイッチが入るようにすることも可能であり、また、他の構成要素についてもLCDの代わりに発光ダイオードを用いたLEDにする等、種々の変更が可能である。

【0015】 また、形態としては上記の例以外にも、図3（a）に示すように本の表紙側をLCDにして、平積みできるようにしたり、図3（b）に示すように本を開いた状態の形状にして、頁に対応する部分をLCDとす

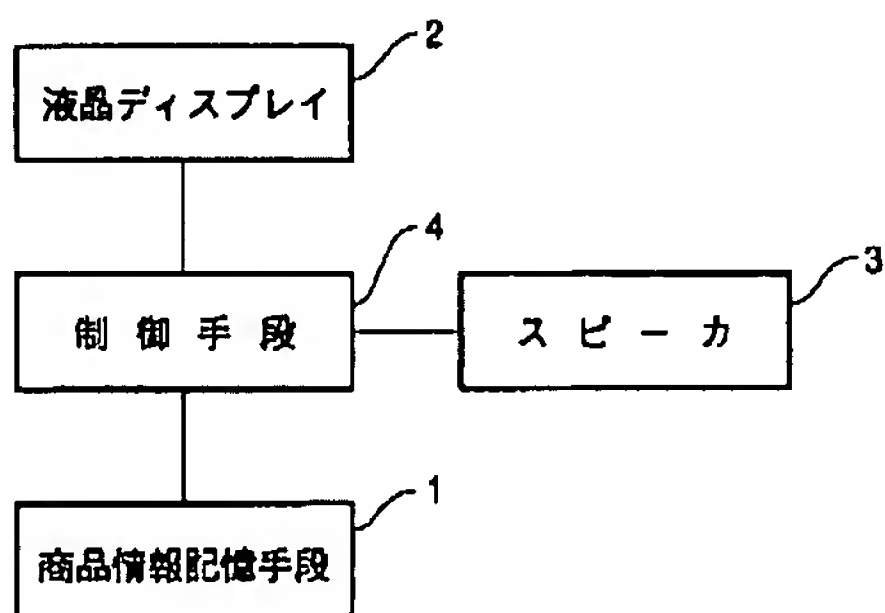
る形態もあり、これらは利用する場所、状況により選択できる。

【0016】以上、書店にて本の形態で利用する場合について説明してきたが、本発明は書店以外での利用も可能であり、例えばサッカーボールの形態をしてスポーツ用品店で利用することもできる。

【0017】

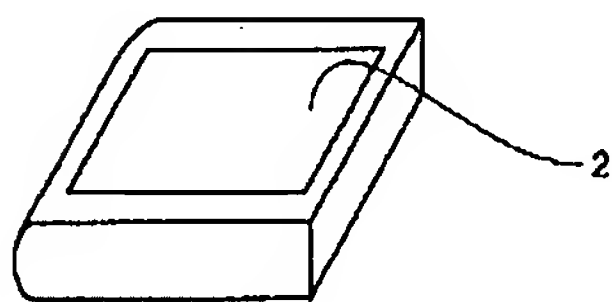
【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば商品の情報を格納した商品情報記憶手段、この商品情報記憶手段に記憶されている情報を表示する表示手段を備えた商品情報表示装置の全体形状が商品と同一もしくは類似の形態をしているため、店頭または店内で商品情報を表示することができ、従来の宣伝用POPにはない新鮮な感じを客に与えるとともに、わずかなスペースで大量の情報を伝えることができるという効果を奏する。

【図1】

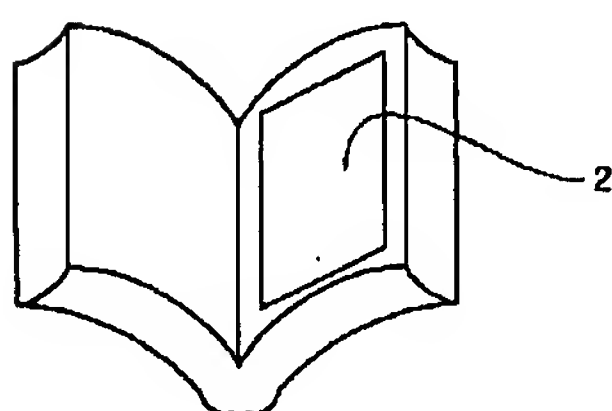


【図3】

(a)



(b)



【0018】

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の商品情報表示装置の構成を示すブロック図である。

【図2】本発明の商品情報表示装置を書店で利用した場合の説明図である。

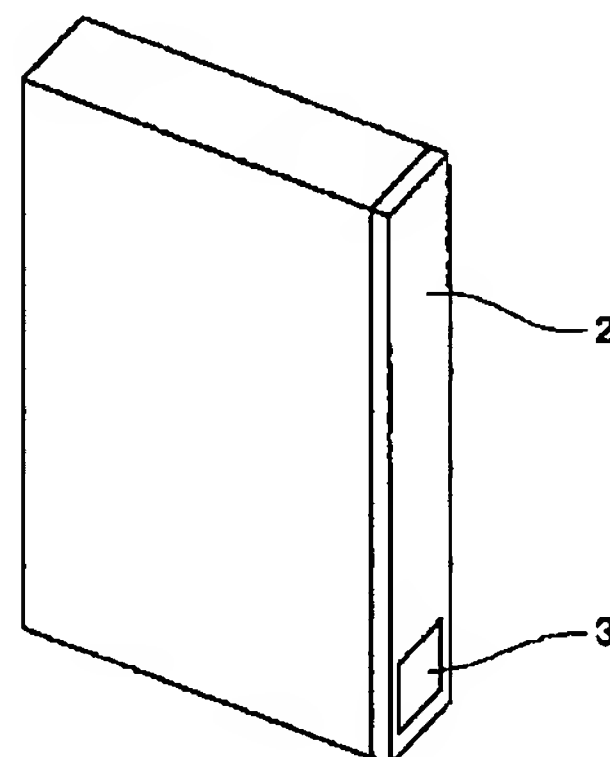
【図3】本発明の商品情報表示装置の他の実施形態を示す斜視図である。

【符号の説明】

- 10 1 商品情報記憶手段  
2 液晶ディスプレイ  
3 スピーカ  
4 制御手段  
5 商品情報表示装置

【図2】

(a)



(b)

